

野菜づくりの基本用語

【ア行】

畝（うね）	作物をつくるため、列状に土を高く盛り上げたところ。
畝立て（うねたて）	畑にうねを作ること。

【カ行】

化成肥料	チッ素・リン酸・カリウムのうち、2種類以上の成分を含んだ化学肥料。
株間（かぶま）	株と株の間隔。
株元（かぶもと）	作物の根元の部分。
花房（かぼう）	房状になった花の集まり。
寒冷紗（かんれいしゃ）	化学繊維、綿、麻などで粗く織りこんだ網目状の薄い布。日差しを抑えて温度の上昇を防ぐほか、防寒、防風、防虫効果もある。

【サ行】

条（じょう）	作物を植え付けた列。条と条の間隔を条間（じょうかん）という。
すじまき	土に直線の溝を付け、その溝に沿って種をまくこと。
側枝（そくし）	主な幹や茎から横に向かって出る枝。

【タ行】

堆肥（たいひ）	有機物（ワラ、落ち葉、生ゴミ、動物のフンなど）を微生物により完全に分解した肥料。
追肥（ついひ）	植物の生育状況に応じて与える肥料。元肥が切れた頃、肥料分を補うために与える。
土寄せ	周りの土を作物の株元に寄せること。
摘心（てきしん）	わき芽や実の成長を促すため、作物の先端にある成長点を摘むこと。
点まき	一定の間隔を空けて、数粒ずつ種をまくこと。

【ハ行】

ぼらまき	畝全体に均一に種をまくこと。
ポリポット	苗を育てるのに、一時的に使用するビニール製の鉢。

【マ行】

間引き（まびき）	種まきした植物が成長して混み合わないよう、生育の悪い株を抜いて株間を開け、日当たりや風通しを良くすること。
マルチ	作物を栽培している土壌の表面を覆うために使われる資材。保温、保湿による生育促進、泥はねや雑草防止のため、マルチで土壌をカバーすることを、マルチングという。
芽かき	主枝を成長させるため、わき芽を取り除くこと。
元肥（もとごえ）	作物を植え付ける前に、土壌に与える肥料。

【ヤ行】

誘引（ゆういん）	枝や茎を支柱などに結びつけて、伸ばしたい方向に導くこと。
ヨウリン	肥料の三要素の一つである、リン酸を多く含む肥料。

【ラ行】

輪作（りんさく）	同じ土地に連続して同種の野菜を作らないように、数種類の野菜をローテーションさせながら毎年場所を変えて栽培すること。
連作（れんさく）	同じ土地に連続して、同種の野菜を栽培すること。連作により、土壌の栄養分が偏ったり、病原菌が増えたりして、作物に悪影響を与えることを連作障害という。

【ワ行】

わき芽	葉や茎の付け根から出る芽。
------------	---------------